奈文研ニュース

No.57 JUNE.2015

NABUNKEN NEWS

NARA CULTURAL PROPERTIES RESEARCH INSTITUTE

独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577奈良市佐紀町247番1
http://www.nabunken.go.jp

飛鳥資料館　開館40周年を迎えて

明日香村奥山の閑静な地にたたずむ飛鳥資料館。今年、開館40周年の記念すべき年を迎えました。

飛鳥資料館は奈良文化財研究所の調査研究成果を展示するとともに、飛鳥を訪れた人びとが古代史について概観することができる、総合的な歴史系の博物館施設です。

今から半世紀ほど前、高度成長とともに各地で開発によって景観が無秩序に破壊されていました。そのような状況から、古都である明日香の風土を守ろうという機運が高まりました。一連の動きの中で、1970年の閣議決定を受けて、1973年に庶務室と学芸室からなる飛鳥資料館準備室が設置されました。時あたかも、1972年の高松塚古墳の発見によって飛鳥ブームが巻き起こっていました。古代史への関心が盛り上がる中、1975年３月に飛鳥資料館は開館しました。建物は谷口吉郎氏による設計で、モダンな外観は40年を経てなお魅力的です。資料館の立地は飛鳥の中心部から外れた交通不便な場所で、駐車場も長らくありませんでした。これは当時、景観保全や観光客に村内を広く周遊してもらう意図等、地元の要望もあったといいます。学芸室の研究員は４名でした（現在は３名）。

開館特別展示は「仏教伝来―飛鳥への道―」でした。1980年まで奈文研に美術工芸研究室があったため、初期には飛鳥や周辺地域の仏像研究が主要なテーマとなりました。展覧会は1978年度から年２回で定着し、2001年度の独立行政法人化とともに年３回、2005年度からは春夏秋冬の年４回となり、2011年度以降は大小合わせて年５~８回の展覧会を開催しています。近年の展覧会では、2006～2010年度と2013年度にキトラ古墳壁画の特別公開を開催し、大勢のお客様にご来場いただきました。

常設展示は奈文研の発掘調査成果を軸としています。第１展示室は飛鳥の宮殿や水落遺跡の水時計、須弥山石等の石造物、高松塚古墳・キトラ古墳、飛鳥寺等の古代寺院に関する展示です。1997年にオープンした第２展示室は、山田寺に焦点をあてています。出土した建築部材による東回廊再現展示は、当館の大きな魅力となっています。

開館当初はたいへん賑わった飛鳥資料館でしたが、1985年度をピークとして、近年は来館者数が減っています。ほかにも課題が多くあります。築40年を過ぎて、施設の老朽化は否めません。お客様のニーズに応え、展示収蔵環境を万全に維持するためには、抜本的な更新が求められます。また、収蔵品の整理や保存修理事業の実施など、山積した問題も容易には解決できません。多忙な日々ではありますが、時間をかけてしっかりと調査研究をおこない、その成果を充実した展示と図録、企画等に結実させることが博物館の学芸の仕事の醍醐味です。なんとかそういう状況を実現させたいと模索しています。

古代飛鳥への関心の高さは、資料館に勤務すると肌で感じます。アンケートや口頭での多くのご意見は、我々の勉強になり、また励みとなっています。皆様の期待に少しでも応えられるよう、よりよい展示と館の活性化をめざして精進してまいります。

（飛鳥資料館　石橋 茂登）

飛鳥資料館の外観

発掘調査の概要

檜隈寺周辺の調査（飛鳥藤原第184次）

檜隈寺周辺の調査は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の整備にともない、奈良文化財研究所が国土交通省の委託を受けて2008年度から実施しています。今回の調査区は檜隈寺中心伽藍の南東にあたる丘陵斜面部に設定しました。この調査区は、2013年度調査区（第180次調査）の南にあたります。

第180次調査では、この丘陵斜面部において古代から中世と推定される建物、塀が発見されています。今回の調査はそれらの建物、塀の広がりを確認し、古代から中世にかけての檜隈寺の実態を知る手がかりを得ることを目的としました。調査期間は2015年２月２日から３月27日までで、調査面積は377㎡です。

調査の結果、斜面頂部および下段部においては、中世と推定される掘立柱建物を３棟検出し、斜面中段部においては、古代と推定される掘立柱建物を２棟と掘立柱塀を１条検出しました。これにより、檜隈寺伽藍南側では主に古代と中世初頭の二時期に建物等が建立されたという第180次調査での見解を追認するとともに、関連する遺構がさらに伽藍南方へ展開することがあきらかとなりました。

調査区中段部では、中世の包含層を除去した褐色粘質土面および地山面で古代と推定される掘立柱建物を２棟と掘立柱塀を１条検出しました。これらの建物および塀の方位は、檜隈寺伽藍の造営方位におおむね一致しています。中段部北端で検出した掘立柱建物は南北、東西とも２間であることが確定しました。中段部南端で検出した掘立柱建物は南北２間以上、東西２間で調査区の南方へ続いていきます。掘立柱塀は第180次調査で検出した塀と一連であることが判明し、西へ折れ曲がることを確認しました。ただし、西に続く柱列の遺構は、後世の削平を受けており検出できませんでした。

調査区頂部では、小型の柱穴を６基検出しました。柱穴は７尺（約2.1m）の等間隔で並び、第180次調査で検出した掘立柱建物と一連であることが判明しました。これによりこの建物は南北５間、東西２間であることが確定しました。柱穴の埋土には瓦器が含まれることから中世の建物だと考えられます。

調査区下段部では、小型の柱穴からなる掘立柱建物を２棟検出しました。それぞれ、第180次調査で検出した掘立柱建物と一連であり、南北４間以上、東西３間以上の建物と南北４間、東西２間以上の建物であることが判明しました。第180次調査の成果より建物の時期は中世以降と推定します。

以上のように、檜隈寺伽藍の南側では、丘陵の頂部、中段部、下段部で時期の異なる遺構が確認でき、中心伽藍の南方における古代から中世にかけての土地利用状況の一端を知ることができました。

（都城発掘調査部　前川 歩）

調査区全景（東から）

斜面中段部掘立柱建物、掘立柱塀（北から）

平城京右京一条二坊・二条二坊の調査（平城第530次）

奈文研ニュースNo.54でお伝えした奈良文化財研究所本庁舎の建て替えにともなう事前の発掘調査の続報です。調査地は平城宮の西面中門である佐伯門の前にあたります。敷地南部から本格的にはじまった調査では、平城京造営にさきだち、秋篠川旧流路をまっすぐに整えて斜行大溝とし、最終的にこの大溝が、敷葉（しきば）・敷粗朶（しきそだ）工法を用いて丁寧に埋め立てられていることがあきらかになっていました。

その後の発掘調査の進展によって、一条南大路および南北両側溝が残存していることがわかりました。写真は西側から撮影したもので、奥の方に奈文研仮庁舎、その手前には基壇のみ復原した佐伯門があり、そこから西に伸びる一条南大路が写っています。道路を斜めに横切るように暗褐色と明黄色の土の違いが見えますが、この暗褐色の土が、斜行大溝を最終的に埋め立てた土になります。

この秋篠川旧流路の埋め立て土からは、木簡もみつかりました。なかには「奈良京」（平城京）と読めるものがあり、「平散」（薬物か）を運ぶ役夫（駈使丁（くしてい））が逃亡したことが書かれていました。「奈良京」という言葉の使用とともに、平城京と藤原京を対比的に用いていることから、平城遷都前後の様子を伝える木簡として注目されます。

一条南大路の規模は、両側溝の中心間の距離から幅約25m（70大尺）をはかります。さらに北側溝と南側溝をつなぐ南北方向の溝もみつかりました。この溝からは、土器や瓦等の遺物と共に、木簡も出土しました。大路を横切る溝で、現代の排水溝のように、蓋で覆う暗渠だったのかもしれません。

また、北側の右京一条二坊四坪内では、奈良時代の井戸が5基みつかりました。なかでも、調査区北部でみつかった井戸は大型で、横板を井籠（せいろう）状に積む構造だったことがわかりました。井戸枠はほとんど抜き取られていましたが、最下段の横板のみ残っていました。その部材は、長さ約2.2m、高さ約25cm、厚さ約6㎝ですから、おおむね一辺が約2mの正方形の井戸だったと推定できます。この抜取穴からは、木簡や墨書土器、三彩瓦、磚等とともに、奈良時代後半の土器が出土しました。

（都城発掘調査部　神野 恵）

一条南大路と南北両側溝（西から）

列点記号を刻した土師器

平城京左京二条大路SD5100から出土した土師器の内面には、焼成後の刺突により列点記号が刻されています。外周と中心点を放射状の列点で結び、起点となる円周上の一点から5点目で次の起点にいたるというこの列点記号の特徴は、現代韓国の「ユンノリ」という双六に似た盤上遊戯の盤面と共通しています。

ユンノリは、現代日本の双六のようにサイコロではなく、かまぼこ形の断面形状を呈する4本の棒を使用し、その表・裏の組み合わせでコマを進める点に特徴があります。

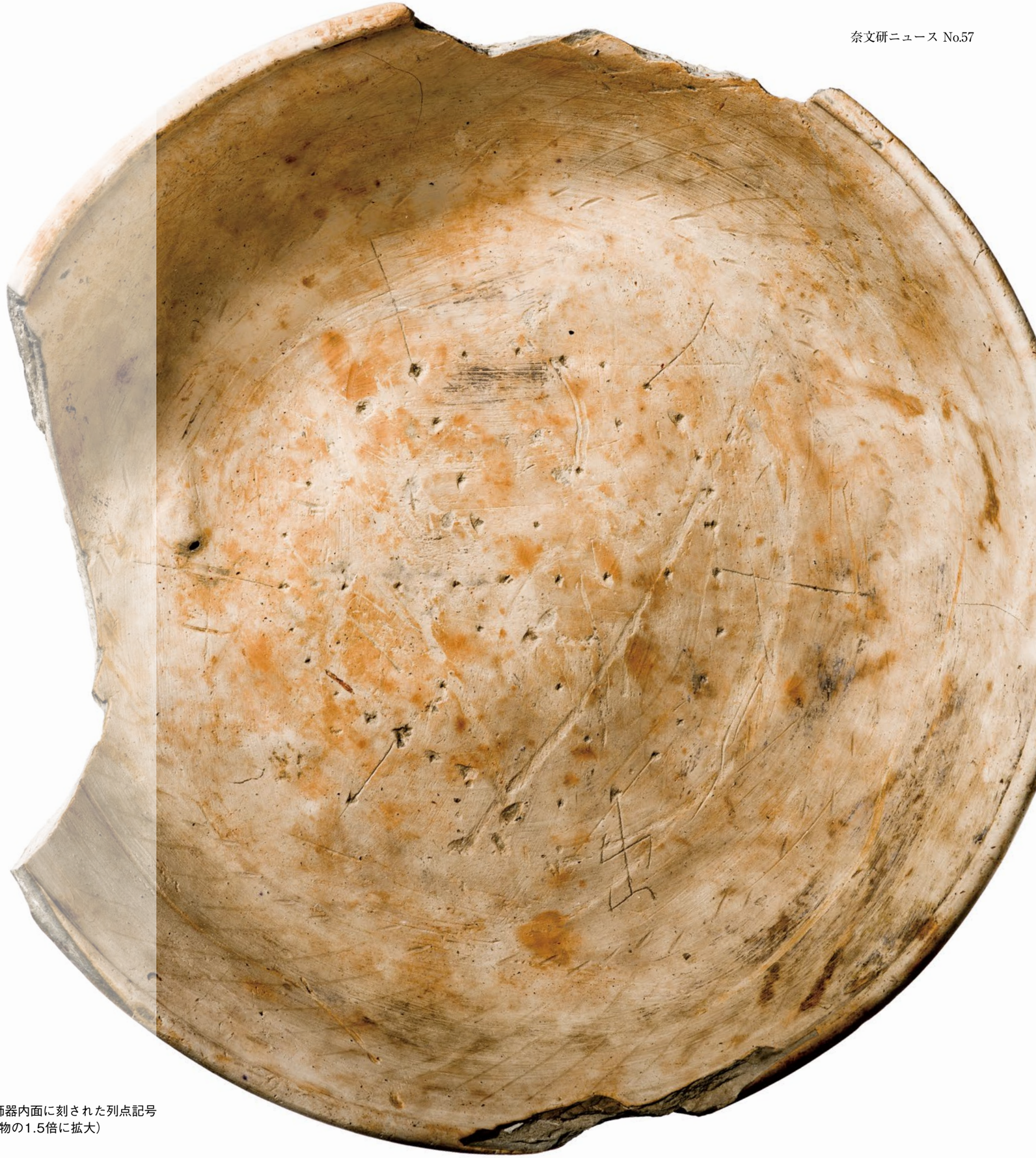
このユンノリは、従来、万葉集研究者によって注目されていました。『万葉集』には「一伏三向」・「一伏三起」と書いて「ころ」、「三伏一向」と書いて「つく」と読ませる用字や、「切木四」・「折木四」と書いて「かり」と読ませる用字があり、これらはユンノリの4本の棒やその組み合わせに関連すると考えられています。

今回ご紹介している列点記号は、万葉集研究者によって奈良時代に存在が推定されていた、ユンノリに似た盤上遊戯の盤面の可能性が考えられます。

（都城発掘調査部　小田 裕樹）

二条大路　SD5100出土土師器

現代韓国のユンノリ（盤・駒・棒）



土師器内面に刻された列点記号
（実物の1.5倍に拡大）

『世界遺産の文化的景観』日本語版の刊行

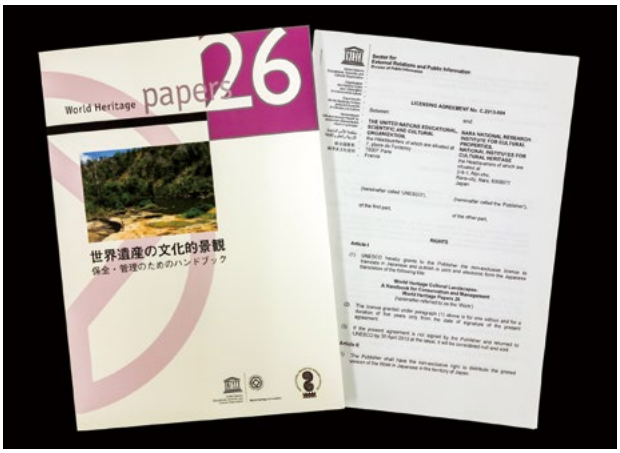
景観研究室では、世界遺産をはじめとした諸外国の文化的景観の保護・マネジメントに関して、日本との比較研究を2011年度より実施しています。

その一環として、ユネスコ（国連教育科学文化機関）世界遺産センターが2009年に英語版を出版したWorld Heritage Papers第26号の翻訳等をおこない、今回、『世界遺産の文化的景観　保全・管理のためのハンドブック』として刊行しました。これは、奈良文化財研究所とユネスコの翻訳出版権契約にもとづくものです。日本語版では、英語版からの翻訳に加え、キショー・ラオ世界遺産センター長から「日本語版のための序文」をご寄稿いただいたほか、景観研究室による解説文等も新たに加えました。

本書は、世界遺産に登録された文化的景観の保全・管理について、実践的な観点から豊富な事例研究も交えてまとめられたもので、現場で取組を進める多様な立場の人に対して役立つことを目指したものとなっています。ここで示された保全・管理の考え方やプロセスは、世界遺産の文化的景観に限らず、現代の生活と密接に結びつき、今も生きている文化遺産（リビング・ヘリテージ）全般についてあてはまる内容であり、極めて示唆に富んでいます。

文化的景観は比較的新しい文化財の種類であることから、景観研究室では、今後も諸外国の動向も注視しながら、価値評価や保護手法に関する調査研究を進めていきます。なお、本書電子版は奈文研学術情報リポジトリおよびユネスコ世界遺産センターウェブサイトでも公開していますので、ぜひご覧ください。

（文化遺産部　菊地 淑人）



ユネスコと締結した契約書と今回完成した日本語版

文化財等防災ネットワーク研修

奈良文化財研究所が所属する独立行政法人国立文化財機構は、国内における文化財の防災体制を確立することを目的として、2014年7月に「文化財防災ネットワーク推進本部」を設置しました。阪神・淡路大震災、東日本大震災をはじめとする大災害により被災した文化財のレスキュー、そして、これらの取組から得られた教訓を基に、多様な分野、諸機関とのネットワークや、文化財の危機管理体制を構築するための事業を展開しています。

奈文研はこの事業の一環として、2015年3月3日からの3日間にわたって文化財等防災ネットワーク研修を開催し、地方公共団体の教育委員会や埋蔵文化財センター、および博物館や資料館等から10名の方に受講いただきました。研修では、東日本大震災での被災文化財等のレスキュー活動事例を中心とした文化財防災の取組に関する講義、さらには水損資料のカビの扱いや具体的なクリーニング方法に関する実習をおこないます。文化財の救援活動等についての実践的な知識と技術の習得に加え、文化財防災ネットワーク設立の背景や目的、全体像についても知識を深める機会となりました。

文化財の防災を考えるとき、“ネットワーク”は重要なキーワードです。このような研修を通して受講者同士のネットワークが拡がり、また研修で得られた知識や技術を地域のネットワークへも拡げていっていただけるよう、今後も同様の研修を継続していきたいと考えています。

（埋蔵文化財センター　中島 志保）

クリーニング実習の様子

埋蔵文化財の発掘調査報告書全文データベース「全国遺跡報告総覧」の公開

2015年6月、埋蔵文化財の発掘調査報告書をインターネット上で検索・閲覧できる「全国遺跡報告総覧」を公開しました。2008年度～2012年度、国立情報学研究所の最先端学術情報基盤（CSI）整備事業の委託を受けて、島根大学を中心とした全国の21の国立大学が連携して取り組んだ「全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト」の成果を、奈良文化財研究所が引き継ぎ運用しています。プロジェクトでは委託事業期間中に約14,000冊の報告書を電子化しました。しかし、各大学に電子データが分散していましたので、奈文研にて電子データを統合した結果、1回の検索で全国の資料を検索できるようになりました。

公開しているのは、地方公共団体等が発行した埋蔵文化財や遺跡に関する資料です。各資料には、それぞれOCR（光学文字認識）処理を施しているため、任意のキーワードで全文検索できます。検索結果のハイライト機能があり、自分の興味がある資料に容易にたどり着くことが可能です。

今後は、国立情報学研究所が提供しているCiNii Booksや国立国会図書館サーチ等、他システムとのデータ連携によって、貴重な発掘調査の成果を、より円滑に流通させ、埋蔵文化財に関する成果の社会還元をめざしています。

利用者の方々にはたいへん好評で、アクセス件数も増加しています。一度、「全国遺跡報告総覧」にアクセスいただき、調査成果をぜひご活用ください。

（研究支援推進部　高田 祐一）

全国遺跡報告総覧 トップページ
（http://sitereports.nabunken.go.jp）

専門研修「文化財写真課程」と出張講習会

写真室では、1990年より文化財担当者専門研修「文化財写真課程」を担当しています。当時は、大判・中判フィルム写真を発掘記録写真の標準ととらえて、受講者に一通りの基礎的な知識と技術を習得してもらうことを主眼としていました。

近年ではフィルム写真の環境が事実上崩壊し、発掘写真もデジタル化を進めていく必要に迫られています。本研修課程も様々な検討を経た「デジタル化の標準」をもとに、講習内容を見直して研修を進めています。

研修での講義・実習はすべてデジタル写真の知識・技術を盛り込んだ内容としています。ただ、ディスプレイ上で写真を判定する技術の前に、暗室処理を体験し、手を動かして写真評価を習得します。ディスプレイでの調整に有効であると受講生からは好評なカリキュラムとなっています。

参加する受講生をはじめ、文化財の記録作業を担当するのは、ほとんどが地方公共団体の文化財担当職員で、写真を専門に仕事をしている職員ではありません。限られた環境の中で出来る限り文化財の記録として「良い写真」を残すため、写真室では写真技術の出張講習会もおこなっています。

文化財写真では、高精度な写真を将来世代に向けて長期に保存・活用することが求められ、数年前まではデジタルは不向きであると考えられてきました。しかし、フィルムインフラが崩壊するのにともなって、白黒現像の保存性も低下するという事態を受け、2012年5月に「文化財写真の保存に関するガイドライン」が刊行されました。

今では、ガイドラインにもとづいたデジタル化についての講習会依頼が増加しており、全国的な文化財記録の様変わりが感じられます。

（企画調整部　中村 一郎）

受講生によるデジタル撮影実習

飛鳥資料館 開館40周年記念 夏期企画展 第６回写真コンテスト
「ひさかたの天(そら)―いにしえの飛鳥を想ふ―」

ひさかたの　天照る月は　神代にか　出で反るらむ　年は経につつ―――

空に照る月は、神代の昔にもどっては、また出てくるのだろうか。年は過ぎていくけれども…大空に照る月を詠んだ万葉集の歌からは、月を見て神代の時代に想いをはせていた万葉人の心が伝わります。

2015年は当館の開館40周年の節目の年です。これを記念して、飛鳥の過去から未来へと、時空を超えて続く「そら」を今回の写真コンテストのテーマとしました。歴史的な風物をいれて、飛鳥の「そら」を写した写真を募集します。あなたが撮影した飛鳥の天、コメントをそえてご応募ください。

（飛鳥資料館　西田 紀子）

甘樫丘の夕照

応　募　締　切：７月５日（日）必着
写真展示期間：７月28日（火）～９月13日（日）（月曜休館）
開　館　時　間：９：00～16：30（入館は16：00まで）
来館者投票期間：７月28日（火）～８月30日（日）
写　真　教　室：９月４日（金）14：00～　デジタル写真の上質仕上げ
事前申込制、申込方法等の詳細は飛鳥資料館ホームページ・チラシをご覧ください。
「飛鳥光の回廊」にともなう無料開館：2015年８月29日（土）、30日（日）18：00～21：00
お問合せ・応募先：〒634-0102　奈良県高市郡明日香村奥山601
飛鳥資料館　写真コンテスト係（☎0744-54-3561）
ホームページ：http://www.nabunken.go.jp/asuka/

平城宮跡資料館 平成27年度夏のこども展示
「平城京“ごみ”ずかん―ごみは宝―」

今年で３回目となる小学生親子向けの夏期企画展。2015年度は、「平城京“ごみ”ずかん―ごみは宝―」と題し、平城宮・京跡で出土した遺物の中から、不要になってごみとして捨てられたものに焦点を当ててご紹介します。平城京の人々は、どこにごみを捨てたのか、どんなものがごみとして捨てられたのか、天平のリサイクル術等の切り口から出土品をみつめ、奈良時代の都のごみ事情に迫ります。会期中、夏休み期間の金曜日には、子ども向けの楽しい講座やワークショップを開催予定です。ぜひお子様・お孫様と一緒にお越しください。

（企画調整部　中川 あや・中村 玲）

会　　期：2015年７月11日（土）～９月23日（祝）
（月曜休館、月曜祝日の場合は翌平日休館）
ギャラリートーク（予定）：７月24日、31日、８月７日、21日、28日（いずれも金曜日）各回14：30～
親子ワークショップ：８月14日（金）14：30～
ホームページ：http://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/
お　問　合　せ：☎0742-30-6753（連携推進課）

■　お知らせ

平城宮跡資料館夏のこども展示
2015年７月11日（土）～９月23日（祝）
「平城京“ごみ”ずかん―ごみは宝―」

飛鳥資料館開館40周年記念夏期企画展
2015年７月28日（火）～９月13日（日）
第６回写真コンテスト
「ひさかたの天(そら)―いにしえの飛鳥を想ふ―」

■　記　録

文化財担当者研修
○建築遺構調査課程
2015年６月８日～12日　８名
○災害痕跡調査課程
2015年６月15日～19日　８名
○建造物保存活用基礎課程
2015年６月22日～26日　20名

平城宮跡資料館ミニ展示
2015年２月14日（土）～３月31日（火）
「発掘速報展　平城2014」　第２期　10,168名

飛鳥資料館春期特別展
2015年４月24日（金）～６月21日（日）
「はじまりの御仏たち」　10,725名

第116回公開講演会
2015年６月20日（土）　200名

編集　「奈文研ニュース」編集委員会
発行　奈良文化財研究所　http://www.nabunken.go.jp/
Ｅメール　jimu@nabunken.go.jp
発行年月　2015年6月